

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選

その16

文：新田 壽重としげさん

ははこぎつね かたきうち 母子狐の仇討物語

天保4年(1834)、^{にながわしよう}蜷川庄野沢の近在で母子狐の仇討ちがあった。

その15年前、原町村に性悪な古狐の猪鼻いのほなよきちと吉が住んでいた。性悪な故に妻もいなかった。隣の芝草村には、男前で正直者の根々兵衛こんこんべいという狐が、器量よしの妻、おこんと暮らしていた。おこんに横恋慕した猪鼻と吉は、手下の森野村の森之進、松尾村の太郎丸と結託して、花見の夜に根々兵衛を呼び出し、しこたま酒を飲ませた挙句に酔いつぶれた根々兵衛を噛み殺してしまった。翌日、おこんは、川浦橋近くの大槻川で変わり果てた根々兵衛を発見、「いつか必ず仇討ちを」と心に誓った。その時おこんは5カ月半の子を宿していた。

臨月になり、おこんは、男児女児の双子を産んだ。子狐が5歳になった時、父が3匹の悪狐に殺されたことを打ち明け、母子は仇討ちを誓い合った。子狐たちが15歳になった時、おこんが本町村の氏神様である稲荷大明神いなりだいみょうじんに願かけをしたところ、白髪の翁がお立ちになり、「慶徳稲荷の奥の院にいる『白狐慶信』^{しろぎつねいしん}という狐の武術流派の祖に弟子入りせよ」と告げられた。母子狐は早速弟子入りし、半年で咬み合いの名人となった。そして時節到来、越後街道の芹沼村に3匹の悪狐がいることをかぎつけた。母子狐は名人でも、相手は手慣れた悪狐で、なかなか勝負がつかない。その時、稲荷大明神が上空に現れ、そのご加護で3匹の母子狐は見事、仇討ちを成し遂げた。その後、神名が下され、今では正一位しょういちい稲荷大明神の御社に住んでいるという。

参考文献 西会津町史第7巻 宗教文化資料 「芝草狐おこん母子の仇討物語」



↑本町の稲荷神社



今月の表紙

今月の表紙は、7月18日に
行われたこゆりこども園の
プール開きから。暑い日が続
きプール開きを心待ちにして
いた園児たちは、はじけるよ
うな笑顔で歓声を上げ、水遊
びを楽しんでいました。

編集後記

全国的に記録的な猛暑が続く今夏。7月23日の「大暑」には、観測史上初めて都内で40度を超え、埼玉県熊谷市では国内最高の41.1度を記録しました。本町も例年になく暑く、取材で外に出れば30分もしないうちにワイシャツまでびっしょりです。

8月7日は立秋。暦の上では秋を迎えますが、本格的な秋はまだ少し先でしょうか。暑い日が続くと秋が恋しいけれど、夏が終わるのは少し寂しい。「ちようどいい夏が長く続けばいいのにな」なんて思う今日この頃です。
四季あってこそ夏 長谷川祐一